

2022年度JQAA総会

(リモート開催)

資料

2022年4月28日

JQAA理事会

総会議案構成

1号議案：2021年度活動および収支報告の承認

- ① 2021年度各部活動
- ② 2021年度収支報告

2号議案：2022年度活動計画の承認

- ① 活動基本方針
- ② 組織体制
- ③ 各部活動計画
- ④ 2022年度収支計画

3号議案：役員を選任

- ① 役員候補
- ② 役員体制

1号議案

2021年度活動及び収支報告

- ① 2021年度に実施した活動
- ② 2021年度活動収支結果

■ JQAAイベントの取り組みについて

● 「リアルJQAセルフアセッサー講演会」

1. JQAAの活動として最も長い期間開催してきたイベントであるが新型コロナの為に2019年12月9日を最後に2020年以降は開催出来なくなっており現在にいたっている。

2. 2022年度は新型コロナが収束し安心安全が確保されてきた段階では再開をしていきたいと考えている。

● 「リアルJQAセルフアセッサー交流会」

1. リアルでの「JQAセルフアセッサー交流会」は企業の経営革新及び自己研鑽のために「知り合い・語り合う」気軽な情報交換であり懇親の場として開催された。

2. 特定テーマは設定せずに自由で開放的な雰囲気の中で交流をしていく場であった。

3. 少人数での開催であり濃厚な交流が出来たものと考えている。

4. しかし第1回目の2019年11月20日の開催の後は新型コロナの為に開催出来ずに現在に至っているものである。

5. 2022年度はリアル講演会と同様に安心安全な環境が実現した段階では再開したく考えている。

■ JQAAイベントの取り組みについて

● 「JQAセルフアセッサー交流会Web分科会」

◇ 「第1回Web分科会」

1. リアルな形でのイベントが開催できなくなってしまった状態となりJQAAとしての価値提供の形に変化が求められてきた。

2. そこで何とか新たな交流の場が提供できないかということでWeb形式での交流会の開催となった次第である。

3. あくまでも交流会の一形態として計画したものである。

4. リアル交流会と異なる点は「特定なテーマ」を設定した点にある。

5. 2020年11月17日に開催した第1回目の分科会では以下の通りのテーマで開催した。

【テーマ】「組織プロフィール」のフレームを活用したイノベーション推進

①主題：地域の経営品質協議会が推進する「組織プロフィール」活用事例

②副題：自組織のイノベーション推進には地域の協議会への参加が効果的！！

* 詳細な報告はアセッサージャーナル誌の前号を参照。

■ JQAAイベントの取り組みについて

● 「JQAセルフアセッサー交流会Web分科会」

◇ 「第2回Web分科会」

1. 実施要領

(1) 日 時：2021年6月16日（水）18:30～20:15

(2) 特定テーマによる交流：

「ポジティブ心理学で経営品質を高めよう」

～～「よしやるぞ！の経営革新」～～

(3) 座長：末吉 進 氏（コーディネーター）

(4) 講演＋ワークショップ（グループ討議）

2. 発表内容

アセッサージャーナル誌「ポジティブ心理学で経営品質を高めよう」実施報告を参照

3. 「分科会」参加者

1) 申込者：30名（うちJQAAメンバー6名）

2) 事前のキャンセル：0名

3) キャンセルを除いた申込者：30名

4) 実質招待者：30名

5) 参加者：25名（うちJQAAメンバー6名）

⇒参加率：25名／30名＝83.3%（第1回：88%）

*JQAAメンバーを除いたときの参加率：19名／24名＝79.2%

6) 当日の欠席者：5名

7) コメント

参加率は83.3%と第1回Web分科会と概ね同様の結果であった。

■ JQAAイベントの取り組みについて

● 「JQAセルフアッセサー交流会Web分科会」

◇ 「第2回Web分科会」

4. 「懇親会」

1) 申込者：19名

2) 参加者：12名⇒参加率：63.2%

3) その他

参加率が63.2%と若干低かった。

時間が短縮されたこともあり、時間的余裕がなかった。

5. アンケートについて

1) アンケート対象者：25名（JQAAメンバーを除く19名）

2) アンケート回収者：19名（JQAAメンバーを除く17名）

⇒JQAAメンバーを除いた回収率：89.5%

3) コメント

アンケート回収率は89.5%と非常に高かった。

6. アンケート集計結果とそのポイント

1) 交流会への参加回数

交流会への参加者は初めて参加の方が53%と過半数を占めていた。2回目までで約7割を占めておりWeb開催ならではの傾向であった。

2) 交流会の情報源は？

圧倒的にJQAA通信（90%）を情報源として参加していた。

3) 交流会の内容は活かそうか？

79%の方が活かせるという回答があり現在のニーズに合っていると思われる。

■ JQAAイベントの取り組みについて

● 「JQAセルフアセッサー交流会Web分科会」

◇ 「第2回Web分科会」

7. 気づき

- ① 価値探求型の考え方の重要性に気付いた。
- ② 「ポジティブ心理学」と「経営品質プログラム」の親和性が非常に高い。
- ③ 様々な業種の方と交流ができ多種多様なアプローチがあることに気付いた。

8. 感想

- ① ワークショップ（小グループ討議）での交流が良かった。
- ② 行動変容のキッカケになると感じた。
- ③ 新しい発見と刺激があった。

9. 現在の悩み

- ① 自社の実績向上のための取引先の強化
- ② 新時代の人材育成プログラム
- ③ 新規の取組組織の創出

10. 今後取り上げてほしいテーマ

- ① アセッサーに必要な知識・スキルの習得とアセッサーとしてのマインド向上
- ② Webを活用した定期的なアセッサー交流会や勉強会の設定
- ③ 学習する組織の最新の実践事例と実装方法
- ④ 大企業の企業戦略実践事例

[第2回Web分科会の様子]

■ JQAAイベントの取り組みについて

● 「JQAセルフアセッサーWeb講演会」

「企業最新実践事例」や「より専門性の高いテーマ」についてWeb講演会を企画した。

2021年は11月に岡本先生による講演会を実施した。

従来日本生産性本部の会場において開催していたリアル講演会のWeb版として企画し、初めて開催をした。

今後も引き続き「最先端企業の実践事例」、「専門スキル」、「日本経営品質賞受賞企業事例」、等のアセッサーにとって関心の高いテーマを取り上げていきたいと考えている。

以下に第1回Web講演会の開催概要を紹介する。

◇実施要領

(1) 日時：2021年11月16日（火）18:30～20:30

(2) テーマ：

「調査と企画を社員の仕事にする」

～エクセレント・カンパニーと平凡企業の違い～

(3) 講師：岡本 正耿 氏

◇発表内容

2021年3月発刊した「アセッサージャーナル第28号」に掲載された岡本正耿氏による執筆の「調査と企画を社員の仕事にする」をベースとして講演いただいた。

内容については「アセッサージャーナル第28号」を参照。

◇参加費：4,000円（税込み）

■ JQAAイベントの取り組みについて

● 「JQAセルフアセッサーWeb講演会」

◇参加状況と申込者への対応状況

1. 参加者：32名

1) 一般の方（有料）：16名（払込済み16名、未払い0名）

2) JQAC個人会員（無料）：15名（内JQAA関連5名）

3) 講師：1名（岡本先生）

2. 欠席者：1名

3. 申込者とのやり取り（対応）が発生した概況

1) やり取りが発生した申込者数：

①全体：13名／27名＝48.1%（講師、JQAA関係者を除く）

②一般：11名／16名＝68.8%（個人会員、講師、JQAA関係者を除く）

③個人会員：2名／11名＝18.2%（一般、講師、JQAA関係者を除く）

2) 個人会員の確認結果

①申込者全員を確認済み：個人会員11名／27名＝40.7%（講師、JQAA関係者を除く）

②確認依頼があり対応した方：4名／27名＝14.8%（講師、JQAA関係者を除く）

3) 領収書・請求書の対応：7名／16名＝43.8%

4) 支払いの督促について⇒支払いを督促した方：7名／16名＝43.8%

5) 必須項目の記述漏れについて

①記述漏れの方：11名／32名＝34.4%

②必須項目の対応：3名／11名＝27.3%

③対応していない方：8名

■ JQAAイベントの取り組みについて

● 「JQAセルフアセッサーWeb講演会」

◇結果のポイント

- (1) 多くの参加者が企画の体験を人材育成に活かすことの重要性を認識していた。
- (2) 参加者が北は北海道から南は鹿児島県まで全国に渡っており、Web形式ならではの講演会となった。
- (3) 個人会員の方が参加者の半数を占めていた。

◇参加者のご意見

(1) 気付き

- ①インタビューでやってはいけない5項目を肝に銘じて実践していきたい。
- ②現場に埋もれている意見・アイデアを企画につなげる人材育成の仕組みを創る大切さに気付いた。

(2) 感想

- ①リモートの為、移動時間や費用が節約でき参加しやすかった。
- ②講義の中で多くの事例が紹介され、応用・活用していきたい。

(3) 今後取り上げてほしいテーマ

- ①リモートでの開催を是非継続してほしい。
- ②実事例（今回のテーマでは企画書）を具体的な形（データ、等）でシェアできるとさらに良い。
- ③日本の国力（国際競争力、幸福度）が長期間低迷している。その真因の解決のためのJQA活動や実践事例を紹介してほしい。

■WebイベントがもたらしたJQAAの進化と課題

●進化

Webイベントの効果は非常に大きなものであった。

◇交流の輪が広がりを見せた。

参加者は全国規模となったことは当然ながら初めての参加者が大変多くを占めたことであった。今までにはなかった顕著な点であった。

◇イベント開催の可能性が大きく膨らんだ。

「いつでも」「どこでも」「柔軟に」参加できるようになり、参加者のみならず運営者にとっても開催の可能性・選択肢が広がったことがあげられる。

◇また企業側はもとより個人としてのレベルアップの機会が大きく広がってきたことは大きいものと考えられる。

◇Webイベントでのワークショップの実践、等の新しい取り組みを行い開催形態の幅が広がった。

◇従来のリアル講演会をWeb形式で講演会イベントが実現できたことによりJQAAイベント活動に交流拡大の道筋が見えてきた。

◇経営品質協議会とのコラボレーション活動は活発に実施することが出来た。

■WebイベントがもたらしたJQAAの進化と課題

●課題

◇WebイベントでのJQAAの対応レベルの向上

1. 有料イベントの問い合わせ対応力の向上
2. クレジット決済の効率化
3. イベント申込管理レベルの向上
4. アンケート対応力の向上

◇日本の国際的企業の競争力強化のための対応イベントの検討

1. SDGs 経営
2. 国家資本主義と日本的資本主義
3. 国力低下対策

◇日本の中小企業が持っている課題に対する提案イベントの検討

1. 後継者不足対応
2. グループ経営

◇セルフアセッサーのレベル向上に向けた取り組みの強化

1. レベルアップイベントの企画

◇JQAC/JQAAのコラボレーションのスパイラルアップ

1. 2022年度事業計画での具体化

●「JQAセルフアッセサーWeb講演会」（有料）

◇分かったこと

1. 「有料イベントの運営」について今回のやり方で十分可能であることが分かった。
但し参加申込人数が50名以上の時には対応方法の工夫が必要。（講演部で検討）
2. 申込者の出席率は極めて高かった。96.9%（=31名/32名）
3. 有料イベントは無料イベントと全く異なり、申込者とのやり取りは大変重要で手数がかかるものの申込者の顔が見えてくることがよくわかった。
 - 1) 特に有料の一般申込者とのやり取りは約7割（68.8%）で発生した。
 - 2) 「一般の方（有料）」の方々に対しては「参加料の督促」、「支払い（請求、領収）」等への対応が多く発生した。
4. 「一般の方（有料）」と「個人会員（無料）」での確認作業は大変重要になる。
 - 1) 個人会員の確認対応は14.8%（4名/27名）あった。
 - 2) 今回の講演会がきっかけで個人会員の特典を知り、個人会員への入会手続きが進んだケースもあった。
 - 3) 一方では手続き中との事で最新情報での対応が必要になって来た。
5. 申込時に必須項目になっているが記述していない方が大変多く発生している。（34.4%）今後の重要な課題である。

● 「JQAセルフアセッサーWeb講演会」 (有料)

◇改善する事

1. 有料イベントは無料イベントと全く異なり、申込者とのやり取りは大変重要で手数がかかるものの申込者の顔が見えてくるのがよくわかった。

「一般の方(有料)」の方々に対しては「参加料の督促」、「支払い(請求、領収)」等への対応が多く発生した。

⇒ (すぐできること) 個別対応ではなくまとめてメールでの督促をする。ステップを決めて対応する。

2. 「一般の方(有料)」と「個人会員(無料)」での確認作業は大変重要になる。

⇒ (すぐできること) 個別対応ではなくまとめてメールでの督促をする。ステップを決めて対応する。

3. 申込時に必須項目になっているが記述していない方が大変多く発生している。(34.4%)
今後の重要な課題である。

⇒現在のソフトの改変

⇒Googleで対応

* 広報担当と共同で検討していく必要あり。



経営品質アセッサージャーナル第29号

2022年3月1日発行

JQAC泉谷代表、岡本顧問、日本経営品質賞受賞4組織他、関係者の協力を得て執筆いただいた。

「顧客価値経営ガイドライン（「日本経営品質賞アセスメント基準書」を改訂）」の概略記事も掲載
各地域の経営品質協議会並びにこれまでに執筆頂いた組織からまとまった購入があった。

- 埼玉県経営品質協議会（80冊）
- 千葉県経営品質協議会（40冊）
- 新潟経営品質協議会（30冊）
- 福井県経営品質協議会（10冊）
- 関西経営品質協議会（55冊）
- 鹿児島県経営品質協議会（40冊）
- 会津若松経営品質協議会（1冊）
- トヨタモビリティパーツ株式会社 茨城支社（25冊）



- | | | |
|-----------------------------------|----------------------|----------|
| ■POV 認定セルフアセッサーが経営改革のリーダーとなることを期待 | 経営品質協議会代表 | 泉谷 直木 |
| ■特別寄稿 変革に必要なのは創造力とストーリー思考 | MPC代表取締役 | 岡本 正耿 |
| 「顧客価値経営ガイドライン」～「アセスメント基準書」改訂～ | 経営品質協議会ワーキングG | 高橋 清 |
| ■日本経営品質賞受賞組織の取り組み | 日鉄人材株式会社 | 玉巻 秀泰 |
| 弊社における経営革新の組織展開と組織活性化のストーリー | 石坂産業株式会社 | 石坂 熊谷 豊 |
| 石坂流経営とは「ホスピタリティ」で循環をデザインする | 株式会社オオクシ | 大串 哲史 |
| 第三者評価による見える化と日本経営品質賞へのチャレンジ | 国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院 | 高橋 剛司 |
| 日本経営品質賞とセルフアセッサー | | |
| ■経営デザイン認証組織の取り組み | 株式会社伍魚福 | 山中 勤 |
| 「神戸で一番おもしろい会社」を目指して | | |
| ■経営品質向上活動を推進・支援する組織 | | |
| 埼玉県経営品質協議会 | 東京メトロポリタン協議会 | 日本経営品質学会 |
| ■JQAAの活動 | | |

経営品質アセッサージャーナル

1. 広報・IT関連

- JQAA通信（No.469-482）計14回配信
- JQAAwebを活用した集客支援
 - JQA セルフアセッサー交流会
- Googleフォームを活用した議決権行使

2. JQAA運営体制

- 2022年3月末の運営委員は47名

2021年度収支報告



道添理事長報告

(単位 円)

1. 収入の部	①交流企画運営	88,000
	②広報・IT活動・ジャーナル発刊	275,353
	③その他	11
	合 計	363,364
2. 支出の部	①交流企画運営	30,440
	②広報・IT活動・ジャーナル発刊	179,876
	③その他	63,660
	合 計	273,676
3. 収支合計		89,688
4. 前期繰越金		1,225,794
5. 残高（繰越金）		1,315,482

<残余資産>

合計 ★2022年3月末実績値★ 68,790 円

内訳) アセッサージャーナル在庫 68,790 円 (490冊分)

監査報告書

経営品質アセッサーフォーラム

理事長 道添 順一 殿

2022年4月24日

監 事

根本 敦
瀬川 和彦



2021年度会計監査

当監事は、経営品質アセッサーフォーラムの規約に基づき、
2021年度(期間:2021年4月1日から2022年3月31日)における、
同フォーラム活動に関わる会計報告書を監査した結果、会計処理は公正と
認められる手続きによって行われていることを確認いたしましたので、
その旨、監査報告いたします。

以 上

2022年度活動計画

- ① 基本方針
- ② 組織体制
- ③ 活動計画
- ④ 2022年度収支計画

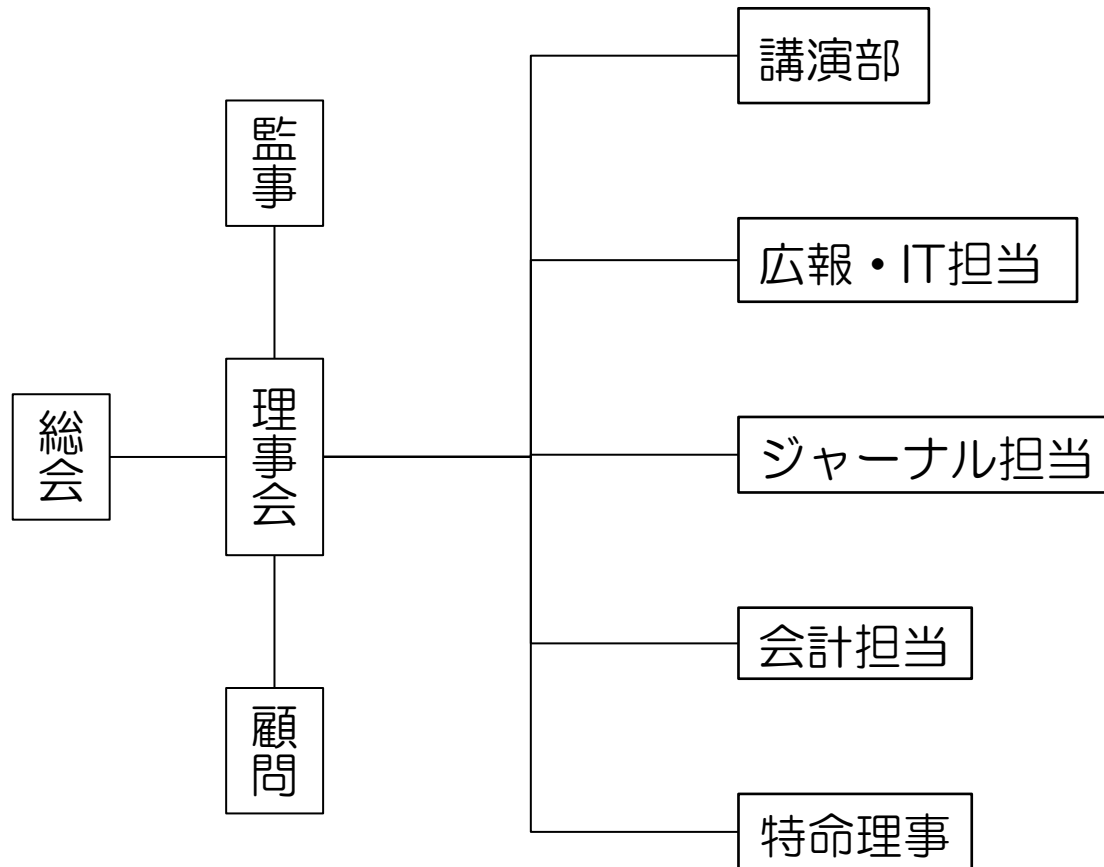
2022年度活動基本方針（案）

<基本方針（案）>

企業・組織の経営革新及び自己研鑽のために、JQAセルフアセッサーに留まらない「知り合い・語り合う」気軽な情報交換・懇親の場づくりを推進する。

- ✓ 直接交流とIT活用を併用した交流の場づくり推進（継続）
- ✓ JQAC及び各地域の経営品質協議会との連携深化（継続）
- ✓ 全国を視野に入れた運営委員の開拓（継続）
- ✓ ITを活用した集客、決済システムの導入（継続）

2022年度組織体制



■ 方針（案）

- 新型コロナウイルス、等の社会環境の急激な変化を踏まえ、Web環境を中心とした経営刷新のための交流の拡大
- 経営品質協議会（JQAC）をはじめとした連携拡大により提供価値の向上

■ 重点実施事項（案）

- 「JQAセルフアッセサーのWeb交流活動」の拡大展開
- 「Web環境を活用した有料イベント（講演会、専門部会、等）」の強化
- 「JQACとのWeb連携イベント」の強化・拡大
- 「地域経営品質交流活動」の企画・推進
- 「イベント活動プロセス」の改善

■ 方針

- 企業・組織の経営革新及び自己研鑽を目指す方々へ、知識・知恵・情報の提供に努める。
 - ITを活用して適時・適確に広報する。
 - 経営品質アセッサージャーナルを通じて、経営品質に関する情報を提供する。

■ 計画概要

- Web (<http://jqaa-net.com/>) での魅力的情報の掲載
- JQAA通信によるタイムリーな情報の発信
- Web有料イベントでの決済システムの検討・導入
- 経営品質アセッサージャーナル第30号の企画・発刊

2022年度収支計画

平本副理事長説明

(単位 円)

収入の部	
①講演部による活動	150,000
②その他の活動（アセッサージャーナル出版を含む）	300,000
合計	450,000
2. 支出の部	
①講演部による活動	100,000
②その他の活動（アセッサージャーナル出版を含む）	150,000
③その他支出（総会、施設利用、交通費等）	100,000
合計	350,000
収支合計	100,000
3. 前期からの繰越金	1,315,482
4. 残高（繰越金）	1,415,482

役員を選任

役員を選任

小林選挙管理委員会委員長報告

役員候補者

理事	北井 優康
監事	根本 敦

2022年度体制

理事：12名、監事：2名、顧問：1名、特命理事：6名

(敬称略50音順)

理事	奥田 啓之
理事	加藤 友成
理事	北井 優康
理事	五味 由紀子
理事	渋谷 照夫
理事	武谷 一寿
理事	田原 浩
理事	中野 康範

理事	平本 洋
理事	道添 順一
理事	三宅 邦之
理事	柳本 直行
監事	瀬川 和彦
監事	根本 敦
顧問	岡本 正耿

特命理事	笹川 良 (福井)
特命理事	高橋 清 (埼玉)
特命理事	鑪野 秀康 (宮崎)

特命理事	二宮 直光 (鹿児島)
特命理事	平井 嘉人 (京都)
特命理事	藪本 剛 (鳥取)